

1 現地説明会

国道340号宮古市和井内地区の道路改築事業において、新しいルートが遺跡内を通過することから、工事に先立ち消滅する範囲を事前に記録し、後世に伝えることを目的とした発掘調査が行われています。

10月7日には、これまでの発掘の成果を展示した現地説明会が開催され、多くの地域の方々が参加しました。現地説明会では、地元古老から当時を偲ぶ話題が出され、はるか縄文時代に思いをはせることが出来ました。



テーブルは土器でいっぱい

2 縄文遺跡

- 検出された遺構は、縄文中期の集落の跡です。(約4,000年前)
 竪穴住居跡33棟、堀立柱建物3棟
- 出土された遺物は、縄文時代の土器、斧状土製品、琥珀です。



大きな竪穴式住居跡



縄文式土器の数々

3 発掘成果

発掘の結果、縄文遺跡は縄文時代の大きな集落の跡であることが分かりました。

周辺は山と川に囲まれ、食べるものに困らない環境であり、また住居を建てるための木の確保も十分に可能で日当たりも良いことから、住むには絶好の場所であったと思われます。

この竪穴住居は、全てが同時に建てられた物では無く、何度か建て直された結果、このような棟数になったと考えられており、遺跡の変遷を知る意味で多くの謎が出てきました。

今後は、見つかった土器などからこの謎を解き明かしながら道路の整備を進めていきます。

問い合わせ先 TEL0193-64-2221